

農林水産大臣賞受賞

～「夢を語り」「人を育て」「地域を創る」～

どりにむ農園構想 一次世代へ

まちしたち くしゅうらくえいのうじっせんかいぎ

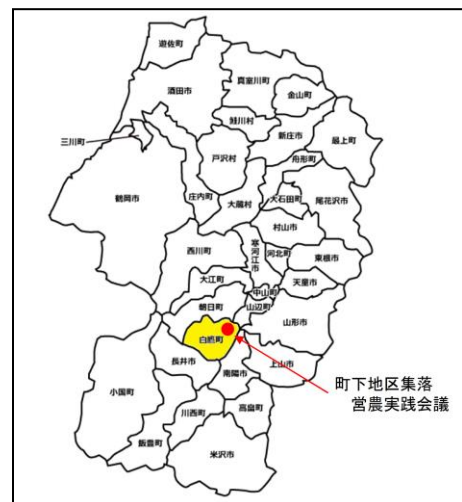
受賞者 **町下地区集落営農実践会議**

にしおきたまぐんしらたかまち
(山形県西置賜郡白鷹町)

■ 地域の沿革と概要

白鷹町は山形県の南部、置賜盆地の北端に位置する。町のほぼ中央を最上川が南北に貫通し、この両岸に細長く田園が連なり、緩い傾斜で畑地帯が広がり山林へとつながっている。町の総面積は 158 k m² で、気候は内陸性気候に属し、気温の年較差、日較差が大きく、平均気温は 10.2℃、年間の降雨量は 1,500mm 前後であり、積雪は西置賜郡内で最も少ない町である。

第 1 図 位置図



■ むらづくりの概要

1. 地区の特色

町下地区は、町の中心部に隣接し、最上川の右岸に位置する。比較的平坦な水田、畑地で占められ、総戸数は 195 戸で農家戸数 66 戸、うち販売農家は 50 戸となっている。

農業は、稲作を中心に園芸（野菜、果樹）との複合経営が主体であり、経営耕地の面積は、水田 60.2ha、普通畑 22.2ha、果樹園 9.3ha、計 91.7ha となっている。認定農業者は 13 名（うち法

表 1 表 地区の概要

| 事項 | 内容 | |
|----------------|---------|----------|
| 地区の規模 | 集落 | |
| 地区の性格 | 地縁的な集団等 | |
| 農家率 (内訳) | | 37.9% |
| 専業別農家数 (内訳) | 総世帯数 | 773戸 |
| | 総農家数 | 293戸 |
| | (販売農家) | 160戸 |
| | 専業農家 | 50戸 |
| 農用地の状況 (内訳) | 1種兼業農家 | 35戸 |
| | 2種兼業農家 | 75戸 |
| | 総土地面積 | 15,771ha |
| | 耕地面積 | 1,920ha |
| | 田 | 1,310ha |
| | 畑 | 609ha |
| 耕地率 | 12.2% | |
| 農家一戸当たり耕地面積 | 6.6ha | |

(注): 四捨五入のため、計と内訳が一致しない場合がある。

人3)で、町内でも農家1戸当たりの農業所得が高く、また、経営改善に積極的に取り組む農業者が多い地域になっている。農家所得の減少から兼業化が進む一方、新規就農者が町内で最も多く定着している地区でもある。地区の中央部に国道287号線が最上川に沿うように縦断しており、山形市、東根市、米沢市、新潟県へと通じる交通上の要所になっている。



写真1 町下地区

2. むらづくりの基本的特徴

(1) むらづくりの動機、背景

ア むらづくりを推進するに至った動機、背景

町下地区の先人は、最上川の上流から堰を築き、用水を引いて水稻を栽培し、用水手当の難しい丘陵地では、果樹・野菜・畜産にと、少量多品目による農業を展開してきた。一戸当たりの経営面積が少ない複合経営農家がほとんどで、個別完結型農業を営んできたが、養蚕業の衰退による農家所得の減少、荒廃桑園地の拡大、農業担い手の高齢化、兼業農家の増加による担い手不足など多くの課題を抱えていた。一方、水田汎用化が進むにつれ、りんごのわい化栽培や野菜類のハウス栽培に取り組むなど、町内の農業をリードする先進的な地区でもあり、米依存型農業からの脱却の必要性に早くから気付き、対応してきた地区である。

町下地区では、地域農業が抱える様々な課題を、個別農家だけでなく地域住民を巻き込んだ集落ぐるみの取組みにより解決していくことを目指し、平成元年に「町下地区集落営農推進協議会」(以下、推進協議会)を設立し、①農地の集積と効率的な水田農業、②担い手の確保と育成、③直売を通じた地域の活性化、④施設園芸の拡大の取組みをスタートさせた。平成17年度には基盤整備事業の完成や農産物直売所の開設などにより、課題解決にある程度の目途がついたことから、「町下地区集落営農実践会議」(以下、実践会議)に改名し、次のステージとして、農業を起点

とした地域内起業や都市農村交流と地域外からの就農者の受け入れと定住に向けた活動に取り組みをシフトさせながら、地域の元気づくりを推進してきた。

イ むらづくりについての合意形成の過程とその内容

町下地区では、水稻や野菜、果樹、畜産等の各生産者に加え、非農家を含む地区全戸が参加し、取組みごとの専門班体制によってむらづくりに向けた話し合いを重ねてきた。地区の動きや営農の取組み状況については、「町下集落だより」を通じて地区住民に情報発信しながら、住民の理解と共有できる環境づくりに努めてきた。

平成元年にむらづくりの取組みをスタートして以来、その時々で手段・方法を変えながら、現在まで30年間に渡って途切れることなく、課題解決と目標達成に向けた実践活動を継続してきた。新たな課題が生じた時にも、農家だけでなく非農家を含む地区住民全員が参加する形で、話し合いと合意形成できる体制が整っていたことで、速やかな対応策の検討や効果的な活動が実践されたり、取組みが継続することにつながっている。

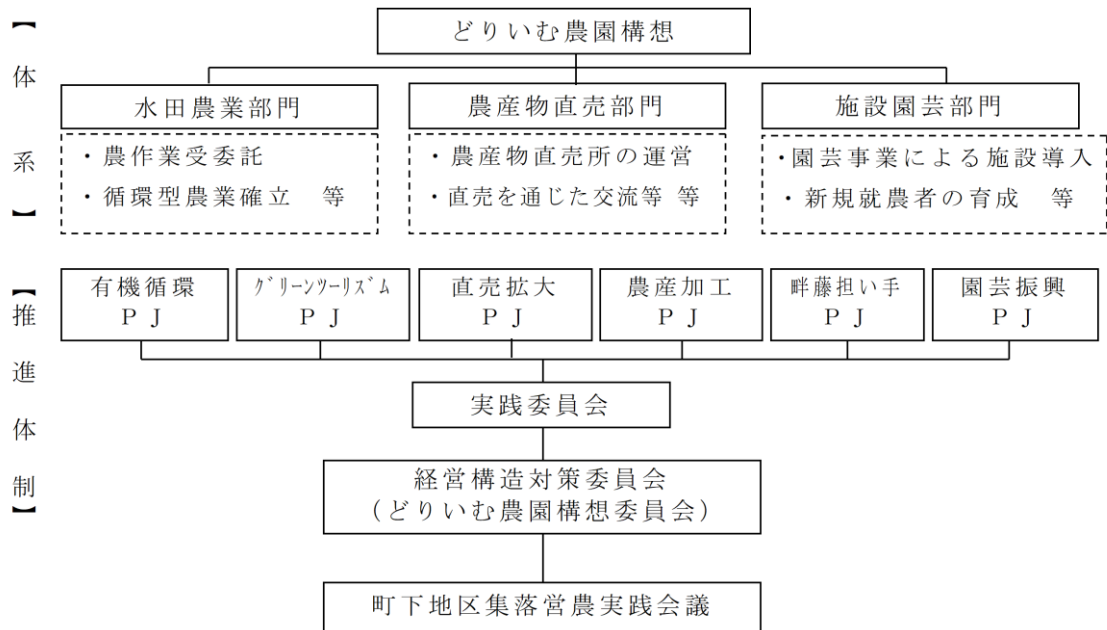
ウ 現在に至るまでの経過等について記述

これまでの経過を大きく4つの活動期間に区分。

第2図 町下地区のこれまでの取組み

| 期別 | 年次 | むらづくり体制 | 構想等 | 主な実践活動 |
|-----|-----|----------------------------|--------------------------|--------------------------------------------------|
| 第1期 | H元 | 集落営農推進協議会 | 町下地区営農ビジョン | |
| | H2 | 実践委員会 | | |
| 第2期 | H3 | | 町下 フェスティバル (H3~12) | 畑地整備(H3-5) 土里夢館(H3-6) |
| | H12 | 経営構造対策委員会 (どりいむ農園構想委員会) | | 産地直売 (H5-12) 基盤整備 (H7-H17) |
| 第3期 | H13 | | どりいむ農園構想 | |
| | H16 | 集落営農実践会議 | | |
| 第4期 | H17 | | 水田農業部門 土里夢ファーム | 直売部門 どりいむ農園直売所 |
| | R元 | | | 施設園芸部門 新規就農者受入 CSA会員制度(H20~) 新農業人フェア(H21~) |

第3図 どりいむ農園構想の体系と推進図

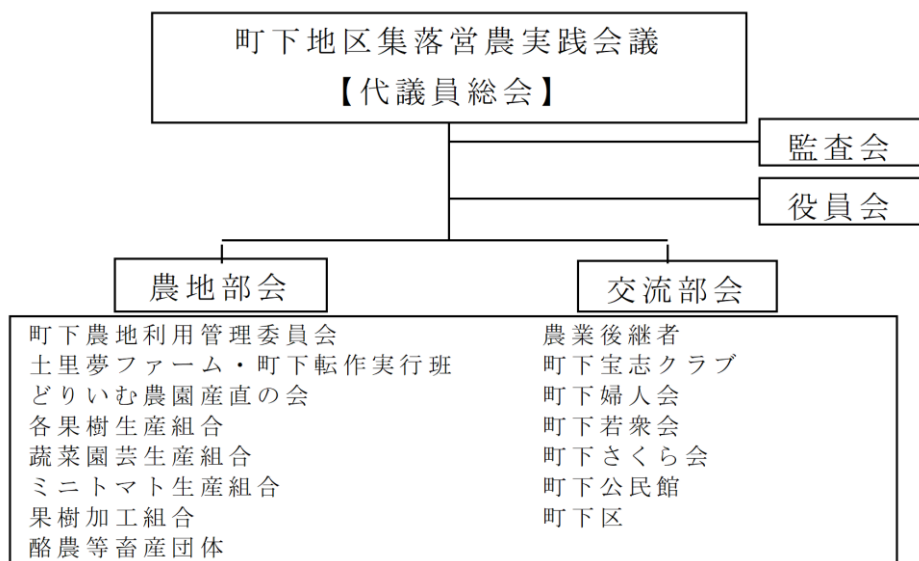


(2) むらづくりの推進体制

ア 組織体制、構成員の状況

当地域の課題を解決するには農業関係者だけでなく、農家・非農家が一体となって取り組み、解決していくべきとの認識から、集落を網羅している自治組織が主体となって課題解決に取り組んでいる。

第4図 町下地区集落営農実践会議組織図及び構成団体



イ 各集落の住民の当該集団等や連携する他の組織

「実践会議」は、設立当初より集落の合意形成を図りながら活動を行ってきたことが大きな特徴である。区内すべての団体を束ねる形で組織を構成しており、町下区長が「実践会議」の会長を兼ね、区と「実践会議」が一体となって活動しているため、非農家の意見もしっかりと実践活動に反映されている。地区全体を動かすことになるため、意見をまとめて舵を切るのに時間がかかるものの、方向が定めれば地区からの後押しが期待できる。農業振興を軸とした「どりにむ農園構想」が確実に実行に移行し、成果につながっているのは、この組織体制ができたことが一番のポイントになっている。

■ むらづくりの特色と優秀性

1. むらづくりの性格

「町下地区集落営農実践会議」は、農家・非農家が一体となって、町下地区の農業が抱える課題に集落ぐるみで取り組み解決していくことを目指す、地域振興と産業振興を合わせ行う団体である。実践会議は、地域住民による合意形成のもと、農業を起点とした地域内起業や都市農村交流、地区外からの就農者の受け入れなどの活動を実践しながら、町下地区が元気になるように様々な取組みを進めている。

「町下地区集落営農実践会議」の前身である「集落営農推進協議会」が発足してから30年間（「実践会議」の活動期間も含む）、様々な局面において地域住民が一体となって話し合い、できることから活動を実践して、「どりにむ農園構想」を継続、発展させてきた。町下地区のむらづくりの取組みは、地域の活性化や白鷹町全体の経済活性化に好影響を及ぼしている

2. 農業生産面における特徴

基盤整備を契機として、平成16年度に作業受託協業組織「土里夢ファーム」を設立、水稻育苗の作業受託、協業経営を行っている。翌17年度には町への働きかけが実現し「白鷹町産直市場どりにむ農園直売所」が建設され、管理運営の指定を受ける形で営業を開



写真2 どりにむ農園直売所

始した。直売所の開設により施設園芸作物に取り組む農家も増加し、当初は 30 名だった会員も、令和元年度には 250 名を超え、品ぞろえ、品質、対応等の良さから口コミで白鷹町内外に評判が広がり、販売額は増大している。また、地域外からの新規就農希望者を受入れ、世襲にこだわらない経営継承の仕組みづくりの実践とともに、毎年 1～3 名の研修生を受入れ、これまでに多くの新規就農者を育成してきている。



写真 3 就農フェア

3. 生活・環境整備面における特徴

地区民の集会所である「土里夢館」^{どりのむ}では、地区民のふれあいと話し合いの場だけでなく、三鷹市民や海外から嫁いだ花嫁との交流会など様々なイベントが開催されるとともに、子ども会の学習活動、農業者の技術交流や農産加工（ジュース加工）が行われている。また、直売所が設置されたことで、農産加工に取り組む女性が飛躍的に増加している。

これらの取組は、農家だけが先導して企画・開催するのではなく、非農家や女性が積極的に立案や企画に参加し、互いに協働した形で行われている。



写真 4 土里夢館



写真 5 地域のイベントは女性や非農家が活躍